Come On! 文化部 30

受信機手に山野駆ける

横手清陵高無線部

夏休み真っ盛りの8月4日、美郷町千屋の大台野広場周辺で開かれた横手清陵高（横手市）無線部の2年生6人が出場した、県内外のアマチュア無線愛好家らでつくる「ARDF（アルディエフ）」の大会。山野を駆け回った。

ゴール後、見つけた発信機の場所を地図と照らし合わせる

アンテナが付いた受信機を手に探索する部員＝8月4日、美郷町千屋の大台野広場

大会では、見つけた発信機の数とタイムを競う。発信機はかけ入ったやスの実や果実の一角などに隠されており、一見見ては見つからない発信機に近づいたり、発信機のある方向に受信機が向いたりすると、イヤホンから聴こえる音が強くなり、発信のヒントになる。

早く多く見つけるには、体力だけでなく、地図から地形を読み、最適なルートを選ぶ判断力も求められる。発信機を全部見つけられないまま制限時間が迫ってきたら、探入りしないで戻る勇気も必要だ。「これまで行ったことのない、自分の知らない所に行くこともある。安全を第一に考えまして、意思の疎通者さえ、年前10時ごろ分の競技開始から1時間後の、時間差でスタートした部員たちが次々にゴールしてきた。「まじ、やバいっすー」。この日は最高30度を超える真夏日。日陰でも強く暑さがかなりこたえるようだ。

しかし顔の話になると、部員たちの話しぶりの日つきがかすかに変わってきた。「いくつ見つけたか」「4個」「残り1個ないか」・・・地図を見て発見場所を確かめる、5個全てを探し当て男子個人・32歳未満の部門で優勝した吉田千太郎さんは「探索と体力のペース配分がうまくいった」と回顧。「1人だけ帰る

かるっと気づくことがあり、前日よりも5日の日分は「当れるように、1秒でもタイムを縮めたい」と笑を見せた。

無線部の主な活動シーズンは4～10月。大会は5月の県春大会を皮切りに、10月まで続く。日々の練習メニューは基本的に部員たちに任せている。「朝の加賀野散歩・実習教師」といい、1周約・4キロ～2時間程度探索する練習を行いながら、体力づくりに励む。大会のない年場合校内で走り込み練習をしている。

「知る度がなくて、部知らない友達に無線用語を説明すると、まず驚かれる」と後輩の太田陽さん。自然の中に飛びかいやすいような楽しさがあり、「マップに発信機があるほうが、ワクワクしてしまう。後輩の力が育かれているような感覚はある」と話す。

部員は全員が自生。思ったこと、気づいたことは必ず話すなど、まず聞かれること。「自然の中に飛びかいやすいような楽しさがあり、「マップに発信機があるほうが、ワクワクしてしまう。後輩の力が育かれているような感覚はある」と話す。

部員は全員が自生。思ったこと、気づいたことは必ず話すなど、まず聞かれること。「自然の中に飛びかいやすいような楽しさがあり、「マップに発信機があるほうが、ワクワクしてしまう。後輩の力が育かれているような感覚はある」と話す。

◇部長から一言◇

「お宝探し」の楽しさ

無線部長 高橋大輝さん（2年）

無線部というと前から、アマチュア無線で交信しているイメージが強かったと思います。全然違います。昔はトランシーバーの電波を使って、学校間で競技をしています。受信機などを使って、目的の場所を探すのと、体力をつけるために走るのと、両方を兼ねるために練習しているような感覚です。この競技自体は、皆さん地方にアクティブだと思います。

皆さんが無線部で、自分の体験と部をうまくに入りました。部員一人一人のキャラクターがとても濃くて、一緒にいて楽しいです。

ARDFは「お宝探し」のような競技です。無線部のイメージを変えたいのが楽しさがあります。

▼創部年月2004年、前身は横手工業高校アマチュア無線部。
▼部員数6人（2年）
▼近年の主な実績＝全日本ARDF戦技大会3＝4位、第一男子優入賞部長賞、学校対抗2位（2位年）、第6位賞高校ARDF春季大会男子団体・四強入賞部（24年）

実力校の背景

新設を機に学校後押し

ARDFは「Amateur Radio Direction Finding（アマチュア・ラジオ・ディレクション・ファインディング）」の略で、アマチュア無線方向探索のこと。県内では平成に入ってから、日本アマチュア無線連盟県支部の講習会や大会を多く開いたほか、熱心な民間企業の存在もあって、普及に向けた動きが活発になった。

1990年代半ば以降、大曲工高や大館工高（現大館桂桜）、能代高など高校にも波及。横手清陵高も、前身の横手工業高アマチュア無線部から移行する形で2004年の学校創立とともに創部した。県内外のARDF大会で優勝するなど好成績を収めており、世界選手権への出場歴もある。

実力校の一つとなった背景について、部創立3年目から3年間顧問を務めるなど、長年高校生にARDFを指導してきた齋藤邦弘さん（70）＝大曲工高非常勤講師＝は「新設校だったこともあり、新しい取り組みとして、学校が強くバックアップしてくれたことが大きい」と話す。

少数精鋭 チーム団結

現在、部員は6人と少数精鋭。ARDFの大会には、個人だけでなく団体対抗の部門もあり、部員の齋藤倫吾さんは「チームワークも重要です」と話す。大会前は、顧問と部員で作戦会議を行うといい、過去の結果やコースなどを分析し、戦略を練る。

練習後のミーティングで、部員と顧問が振り返る＝8月26日、横手市大沢の横手清陵高校

〈朝日新聞2日掲載〉